

キャリア教育通信

群馬県立館林特別支援学校
令和3年6月7日
個別面談特別号
進路指導部

◎個別面談がはじまりました！

個別面談は、学校とご家庭との共通理解のもとに指導を進めていくため、個別の教育支援計画や個別の指導計画の内容について話し合う機会とさせていただいております。個別の教育支援計画の作成に当たり、参考となる考え方の一つとしてPATHを紹介します。

《PATH》

- Planning Alternative Tomorrow with Hope（希望に満ちたもう一つの未来の計画）の略称。
- 障害のある人本人と、関係のある多くの人が一堂に会して、障害のある人の夢や希望に基づきゴールを設定し、そのゴール達成のための作戦を立てる。（干川、2002）
- 子どもの指導に関わる人が集まって情報を集め、新たな発想で目標や手だてを考える方法であり、情報の共有だけでなくアクションプラン（行動計画）を考えるということや、関係者がそれぞれの力を発揮することを目指すといった特徴を持つ。（Pearpoint, O' Brein,& Forest, 2001）。

参考：国立特別支援教育総合研究所 教育相談年報 第30号 2009 本人中心アプローチによる障害のある子どもの支援の輪作りに関する事例報告—小学生へのPATH（Planning Alternative Tomorrow with Hope）の実施— 涌井 恵（教育支援部）カナダで開発された手法です。

◇ PATHの考え方 ◇

(Planning Alternative Tomorrow with Hope)
「希望に満ちたもう一つの未来の計画」

幸せの一番星
(夢・希望)



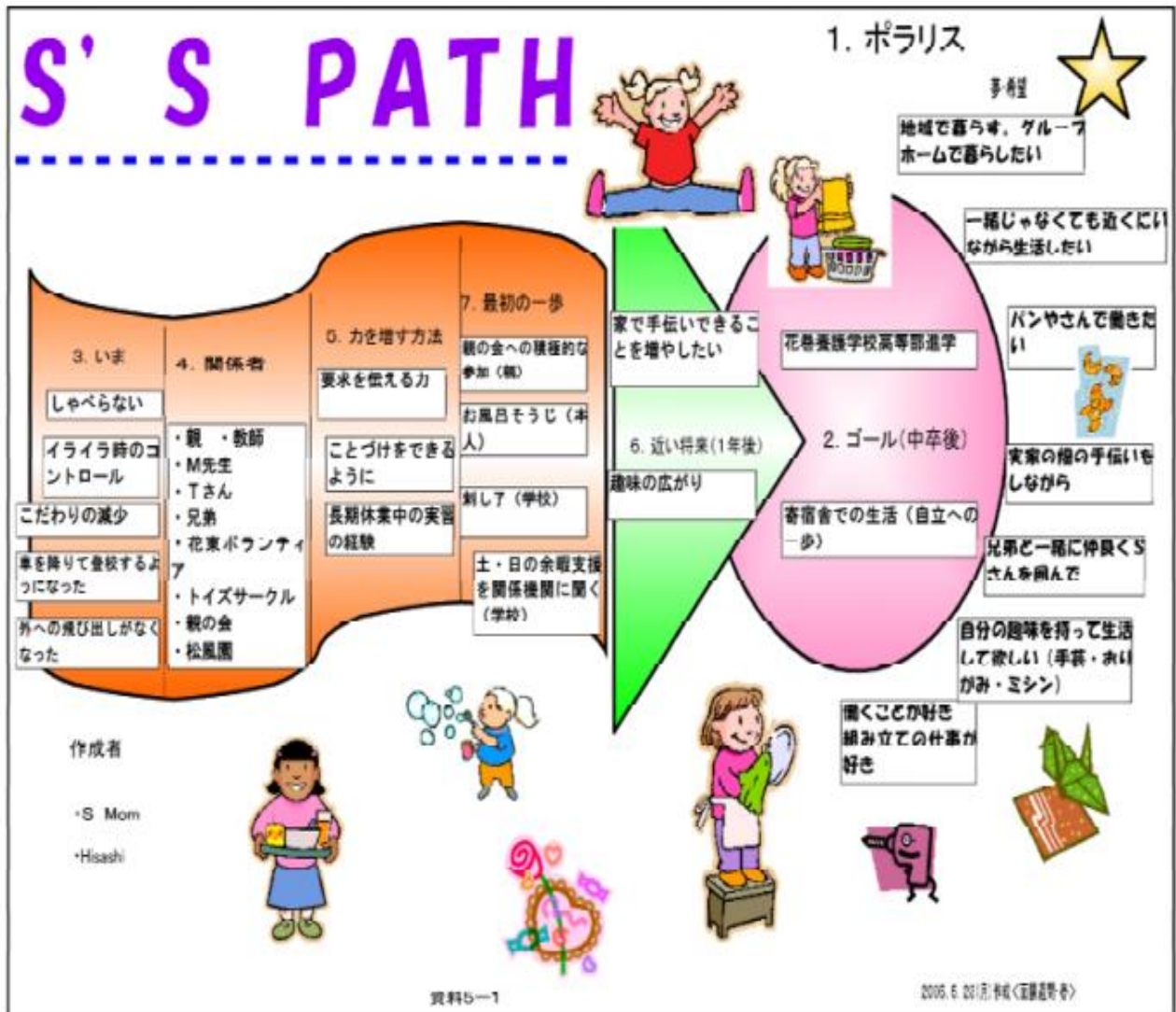
- <ステップ1> 障害のある人の「幸せの一番星(夢)」を皆で共有する。
- <ステップ2> **ゴールを設定**し、夢が達成できた時に何を感じているかを話す。
- <ステップ3> ゴールに向けて、**今、どんな状態にあるのか**を確認する。
- <ステップ4> 夢の実現のために **どんな力を身につけたらよいか**、を話し合う。
- <ステップ5> 夢の実現のために **必要な人が誰か?**を確認する。
- <ステップ6> **近い将来**、夢の実現に向けてどんなことをしているかを確認する。
- <ステップ7> **はじめの一步**として、参加メンバーがそれぞれの立場で何をするかを表明する。

<引用> 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 「ぱれっと(PALETTE)」作成チーム(2016年)
手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ ぱれっと(PALETTE)
～子どもが主体となる教育計画と実践をめざして～ 株式会社 ジアース教育新社(116ページ)

例) SさんのPATH

引用：岩手県総合教育センター特別支援教育室の

「特別支援学校(知的)キャリア教育推進ガイドブック」より



将来の姿から思い浮かべ、今できることを考えるツールとして、PATHを紹介させていただきました。お子さんのPATHを考えてみてはどうでしょうか。やってみたいと思われた方には、下記の「PATH記録シート」を差し上げます。担任の先生に一声おかけください。

そこに、我々も関係者として何かできることがあるはずで、そんなことを一緒に考えることができれば素敵です！

○PATH記録シート

